

Allegro assai
Baritone Solo

Freu - de, Freu - de, Freu - de, schö - ner

Freu - de! Freu - de!

Allegro assai
Ob.
Clar. *dolce*
Fag.
Cor.
Arch. pizz.
Arch. pizz.
Arch. pizz.
Clar. I

Göt - ter - kin - der, Toch - ter aus E - den
Wir be - tre - ten feu - er - bran - ken

Him - ni - sche, dein hei - lig - tum!
In - knau - ber - bin - den wie - der was die Me - ren

streng ge - telt; al - le Men - schen wer - den Brü - der, wo dein sauf - ter Flu - gel weit.

Legni

cresc. *p*

第九

カワイ出版刊「交響曲 第九番 第4楽章“合唱”より転載

'97春日井市民第九演奏会

とき 1997.12.7 SUN 午後3時開演 春日井市民会館

主催 春日井市、春日井市教育委員会、'97春日井市民第九演奏会実行委員会

共催 春日井市交響楽団、春日井第九合唱団

後援 中部大学、中部大学女子短期大学、中日新聞本社

ごあいさつ



春日井市長 亀飼 一郎

本日は、「'97春日井市民第九演奏会」によるこそお出かけくださいました。年末のひとつ、今年も皆様とともに「第九」の調べを鑑賞できることを大変うれしく思います。

春日井市制50周年を契機として始めました『春日井の第九』も、今年で5回目を迎え、年末の恒例行事としてすっかり私たちの心に溶けこんでおります。それは、合唱から管弦楽までのほとんどを市民が担うという、文字どおり市民による手づくりのこの演奏会に、皆様の音楽に対する情熱がそそがれているからでありましょう。『魅力ある市民文化の創造』をまちづくりの一つとしているわが市にとりましては、誠に心強く喜ばしいことでもあります。物の豊かさから心の豊かさへと、人々の価値観が変化してきた昨今、生の音楽とりわけ名曲に直接ふれ、雄大な演奏に感動を覚えることは、きっと豊かな心を育むことでしょう。

今日にいたるまでの、春日井市交響楽団と春日井第九合唱団の皆さんを始めとする、関係の皆さんの多大な努力と熱意に心からの敬意を表します。

今回は、指揮者に「第九」初演の地ウィーンからアレクサンダー・ドゥルカー氏をお迎えし、ソリストには国際的に活躍されている方々を始め実力派の皆さんをお迎えしております。最近めきめき腕を上げつつある市民参加の春日井第九合唱団と春日井市交響楽団とのすばらしい共演をごゆっくりお楽しみください。



'97春日井市民第九演奏会実行委員会会長
中部大学長 山田和夫

本日は、「'97春日井市民第九演奏会」によるこそおいで下さいました。この恒例の第九も今回で第5回を迎えます。合唱団も、オーケストラも、さらに充実の度を深めて、文化都市春日井・音楽都市春日井の名を高めるべく努力いたしております。みなさまのますますのご支援・ご協力をお願いいたします。

ベートーヴェンの「第九交響曲」は、最終楽章をシラーの詩「歓喜によする頌歌」で飾ります。1786年、シラー26歳の作品です。そのとき、シラーは、絶望の底から歓喜の絶頂に登りつめた最も幸せな瞬間を経験していました。ライプチヒにいる見知らぬ4人の若者たちが彼の苦境を助けてくれたからです。彼の戯曲に感動したドレスデン上級宗教局顧問官K.G.ケルナーと彼の婚約者ミンナ＝シュトック、ケルナーの友人のL.F.フーバーとその婚約者ドロテーア・シュトックが熱烈なる賛辞の手紙を送ってきたのです。シラーは、「いま、私の魂は、新しい糧を——よりよい人々、友情と信頼と愛情とを渴望しています」と返事を出しました。彼らは、シラーの借金返済の資金と旅費の手当をして彼をライプチヒに迎えます。貧困と苦学に明け暮れたシラーは、ここで初めて試練の時代を終えることが出来たのでした。ケルナーたちとの幸せな生活は、すぐに「ドン・カルロス」と「歓喜の頌歌」を生み出しました。「歓喜は、私たちの心を一つに結びつける神々の火花だ。この地上で、一人の友でも自分のものだといえる人は大きく歓声を上げよう」と歌うとき、そこには詩人の想像力を越えた、真実の友情が感じられます。それが、ベートーヴェンを感動させ、「第九」を歌い聴く私たちに感動させるのでしょうか。

指揮者のAlexander Drcarさん、4人のソリストのみなさま、ご指導いただいた合唱指揮者とトレーナーの先生方に心からお礼申し上げます。そのほかお世話になりました多くのみなさまに感謝いたします。

それでは、ごゆっくり「春日井第九」をお楽しみ下さい。

プログラム

Program

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン作曲
LUDWIG VAN BEETHOVEN(1770-1827)

交響曲第9番 二短調 作品125 「合唱つき」 Symphony No.9 in d-minor op.125 "Choral"

- 第1楽章 アレグロ マ ノントロppo, ウン ポコ マエストーソ
1 mov. Allegro ma non troppo, un poco maestoso
- 第2楽章 モルト ヴィヴァーチェ
2 mov. Molto vivace
- 第3楽章 アダージョ モルト エ カンタービレ - アンダンテ モデラート - アダージョ
3 mov. Adagio molt e cantabile - Andante Moderato - Adagio
- 第4楽章 フィナーレ, プレスト - アレグロ アッサイ
4 mov. Finale, Presto - Allegro assai

指揮者
Conductor

アレクサンダー・ドゥルカー
Alexander Drcar



ソプラノ Soprano
松波千津子

アルト Alto
森山京子

テノール Tenor
大間知 覚

バス Bass
稲垣 俊也



音楽監督 都築正道
Music director

合唱指揮 吉川 朗
Chorus conductor

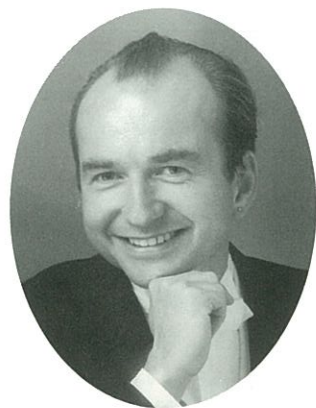


管弦楽 春日井市交響楽団
KASUGAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA



合唱 春日井第九合唱団
KASUGAI CHORUS OF THE 9TH SYMPHONY

出演者紹介



指揮者 アレクサンダー・ドゥルカー

いま、もっとも活躍中のウィーンの若き指揮者。1995年以来、クラーゲンフルト(オーストリアのケルンテン州の首都)市民劇場の準音楽監督をつとめています。交響曲や協奏曲の指揮のほかに、オペラのレパートリーも多く、「フィデリオ」「リゴレット」「セヴィーリアの理髪師」「コシ・ファン・トゥッティ」「ボエーム」などを指揮して好評です。1992年にウィーン音楽大学の大学院で指揮のディプロマ(資格証明)を取り、オーストリア教育省から名誉賞を受けました。大学では、指揮と作曲とコンサート・ピアノとオペラ指導者(コレベティトゥーア)を学びました。ヨーロッパの主要劇場で、コンサートとオペラの双方の指揮者として多くの公演に出場しています。1997年の今年、バルセロナのリシュエ劇場で「道化師」や歌劇「哀れな水夫」(ミュッテル作曲)を指揮しました。今回、春日井市民第九演奏会実行委員会の招聘により初来日を実現しました。



ソプラノ 松波千津子

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科から大学院まで進みました。在学中から学内の作曲家作品発表会で、新作に数多く初演しました。これまでに「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッティ」「綾の鼓」「修善寺物語」「祝い歌が流れる夜に」「黄金の国」「唐人お吉」「春琴抄」「蝶々夫人」「袈裟と盛達

「夕鶴」「電話」などの主役を歌っています。宗教曲や「第九」のソリストとしても活躍。海外公演も多く、1992年世界マダムバタフライコンクール日本代表や1995年日伯修好100周年記念演奏会に招待されました。今年の10月ニューヨークのカーネギーホールで「唐人お吉」のお吉役で出演。現在最も人気のあるソプラノとして「春日井第九」は二度目の出演です。



アルト 森山京子

国立音楽大学を卒業後、1992年文化庁派遣在外研修員としてイタリア(ミラノ)に留学しました。G.ヴィーギ氏、A.ベルトラウト氏に師事しました。ザヴィリアーノ国際音楽コンクールで入選。オペラ・デビューは「カルメン」のタイトルロールです。1994/95年シーズンと1995/96シーズンには、ドイツ

のライブチヒ歌劇場に客演として出場しました。ドニゼッティ歌劇場(イタリアのベルガモ)でシモンマイヤーの「レクイエム」のライブCD録音に参加しました。パルマ、ジェノヴァでリサイタルを聞かれています。現在、藤原歌劇団員。



テノール 大間知 覚

国立音楽大学声楽家を卒業して大学院のオペラ科に進みました。1991年「イタリア声楽コンクール」で第1位「ミラノ大賞」を受けました。二期会修了時に「優秀賞」を受賞して会員に推薦されました。1992年よりイタリア「ジュゼッペ・ヴェルディ国立音楽院」に留学。1993年に文化庁国内研修員。「魔笛」「ラ・ボエーム」「カルメン」「運命

の力」「蝶々夫人」など、二期会の数々の主役を演じ好評でした。また、今年の7月に二期会オペラ公演の「リゴレット」のマントヴァ、11月の第二国立劇場にこけら落とし公演オペラ「タケル」に出演。二期会会員。



バス 稲垣俊也

1961年、名古屋生まれ。東京芸術大学卒業。文化庁オペラ研修所第7期生修了。卒業後直ぐ「第九」(東京交響楽団)のソリストとしてデビュー。90年文化庁2年派遣芸術家在外研修員でイタリア留学。91年カシナ国際声楽コンクール入賞。92年パルマヴェルディコンクール優勝。シエナ音楽祭で欧州デビュー。藤原歌劇団「ラ・ボエーム」

「ルチア」、二期会「トルヴァートル」「カルメン」、日生劇場「魔弾の射手」「愛の妙薬」、読売日響「アイダ」などのバス役で活躍。二期会オペラ21シリーズ「ドン・ジョヴァンニ」の主演で絶賛。第3回グローバル東敦子賞・第22回ジローオペラ新人賞受賞。二期会会員。今回第二国立劇場の「タケル」の主役に抜てきされました。



音楽監督 都築正道

1940年名古屋生まれ。名古屋大学文学部美学卒。関西学院大学大学院博士課程修了。「ワーグナー研究」で文学博士。現在、中部大学女子短期大学教授。春日井市交響楽団音楽監督。愛環音楽連盟理事長。朝日新聞音楽評担当。「オペラ・トーク」「ハイビジョン・オペラ・シアター」など、講演会やTVや雑誌でオペラの解説。「名古屋オペラ・サロン」主宰。主著『楽劇：音と言葉の美学』(音楽之友社)や『あくびなしの音楽講座：トスカ』(同)。

オーケストラトレーナー 池田 俊

大阪音楽大学器楽科卒。西ドイツのデトモルト国立音楽大学留学。大阪フィルハーモニー交響楽団に入団。首席トランペット奏者。大阪シュベルマー金管アンサンブルを主宰し指揮とトランペットを兼ねる。大阪フィルを退団。現在フリーの指揮者・演奏家として活躍中。現在：高知大学交響楽団常任指揮者。大阪芸術大学講師。



合唱指揮 吉川 朗

愛知教育大学音楽科卒業。同大学院(作曲)修了。あけぼの合唱団、大高北PTAコーラスを始め、名古屋オペラ協会、愛知県文化振興事業団などのオペラの正指揮、副指揮を務める。名古屋芸術大学音楽部オペラ研究室実技補助員。大垣女子短期大学非常勤講師。

ピアノ伴奏(合唱団) 竹内理恵



オーケストラ 春日井市交響楽団

平成2年11月、春日井市初のアマチュアオーケストラとして生まれました。翌年創立記念演奏会を開き、以後毎年、春日井市民会館で多くの市民を集めて定期演奏会を行い、今年の7月に第6回を迎えました。名誉会長に鶴飼一郎春日井市長、会長に山田和夫中部大学長を迎えて、団長の花村浩克を中心とした約60名の団員の活躍は、春日井市の音楽文化の原動力となって、ますますその重要性を高めてきていると自覚しています。今年も9月の愛環「千人の第九」出演など、さらに活動の場を広げています。この春日井市民第九演奏会においても、音楽に対する情熱と豊富な経験と具体的なノウハウと優れた技術を活かした表現力豊かな演奏を実現したいと意気込んでいます。



合唱 春日井第九合唱団

平成5年12月の春日井市制50周年記念第九演奏会に出演した春日井市民を中心に結成された合唱団。それ以降、毎年12月に開かれている春日井市民第九演奏会に、200名の大合唱団として出演しています。創立以来、ベテランの指導者吉川朗先生の熱心な指導に加えて、団長の荒川昭代のおおらかな人柄とそれを支えるスタッフの優れたリーダーシップが、経験豊かな合唱団員を勇気づけ、心のこもったダイナミックで質の高い演奏を生みつけています。この9月にオーケストラと共に愛環「千人の第九」演奏会に出演しました。多くの練習を重ねながら、常にほほえみあふれる友情と新たなレパートリーと広い活躍の場を作り出している合唱団です。

『歓喜に寄す』対訳と韻律

～ ベートーヴェン《第九交響曲》：終曲の合唱 ～

今年、《第九交響曲》の第4楽章で歌われる歌詞をご紹介します。大きく分けて、ベートーヴェン自身がこの曲にかけた「主張」(マニフェスト)とシラーの詩『歓喜に寄す』の抜粋の二つです。そのドイツ語とカタカナ発音と詩のリズムと対訳を以下に示します。

| | |
|------|--|
| 作曲年代 | 1817年—1824年2月 |
| 初演 | 1824年5月7日 ケルトナートール劇場 |
| 献呈 | プロシャ王フリードリヒ・ヴィルヘルム3世 |
| 出版 | 1826年6月 マインツ市ショット社。総譜・管弦楽合唱パート譜・終楽章ピアノ版総譜出版 |
| 楽器編成 | picc.1 / fl.ob.cl.fg.(第4楽章でコントラ・ファゴットが加わる) trp.(第2、第4楽章にはトロンボン3が加わる) 以上各2 / hrn.4 / tim.(第4楽章にはトライアングル、シンバル、大太鼓が加わる) / 弦5部 / ソプラノ、アルト、テナー、バリトン各ソロ、混声合唱 |
| 第1楽章 | Allegro ma non troppo, un poco maestoso. (14') |
| 第2楽章 | Molto vivace. (11') |
| 第3楽章 | Adagio molto e cantabile. (16') |
| 第4楽章 | Finale. (28') [1'09'] |

A 「ベートーヴェンによるマニフェスト」

| | |
|---|---|
| O ¹ Freunde, ² nicht ³ diese ⁴ Töne ⁵ ! オー・フロインデ・ニヒト・ディーゼ・テーネ | ああ ¹ 友人たちよ ² このような ⁴ 音楽 ⁵ ではないのだ! ³ |
| Sondern ⁶ lasst ⁷ uns ⁸ angenehmere ⁹ ゾンドゥルン・ラスッ・ウンズ・アングネーメウレ | そうではなく ⁶ 私たちを ⁸ もっと楽しく ⁸ 歌わ ¹⁰ せ、 ⁷ そして ¹¹ |
| anstimmen, ¹⁰ und ¹¹ freudvollere ¹² ! アンシュティンメン・ウントゥ・フロイデンフォーレウレ | 喜びに満ちた ¹² 音楽を! ⁵ |

個人的なマニフェスト 長い序奏のあと、シラーの詩『歓喜に寄せる頌歌』が歌いだされる前に、バリトン・ソロがまるで宣言文を読むように朗唱します。「ああ、友だちたちよ、このような調べではなく、もっと心楽しく喜びにあふれた調べを歌おうではないか」。この冒頭での呼び掛けは、ベートーヴェン自身が書き記した序詞です。この個人的な発言は、終楽章全体がベートーヴェンの主張を述べる、個人的な「マニフェスト」(宣言文)であることをはっきりと現わしています。

シラーの『歓喜への頌歌』 ベートーヴェンが最後の交響曲の最後の楽章にテキストとして用いたのは、8節からなるシラーの詩『歓喜への頌歌(しょうか)』“Ode an die Freund”です。ベートーヴェンは、この詩の中から人類愛を力強く賛えた詩句だけを自由に抜粋して再構成しました。ベートーヴェンが、この詩に作曲しようと思ったのは、1793年(23歳)だといわれています。「第9交響曲」の完成に先立つ31年前です。その当時は、シラーの詩8節全部に歌をつけ、通作歌曲として独立した合唱曲にしようと考えていました。しかし、『命名祝日』序曲(作品115)にこの合唱曲の流用を思いたち、その時は、ある程度抜粋した詩の構成になっていました。これも実現しませんでした。結局、シラーの詩は、やっとのことで最後の交響曲に甦ることになります。でも、それは、すべての人から祝福された誕生ではありませんでした。

現代詩としての『歓喜の頌歌』 ところで、当時の人々にとってこの詩は、大衆におなじみの宗教詩でも聖句でも古典詩でもない、彼らと同時代の詩人フリードリヒ・シラー(Friedrich von Schiller,1759-1805)の思想的な現代詩でありました。時の政権メッテルニヒの政策に反対する「危険なほどの民主主義思想が、宗教的な歌詞の中に入り込んだのである」(フリーダ・ナイト)といわれるほど、本質的には、政治的な主張を歌ったプロバガンダな詩なのです。このことが、当時のウィーンの人々に、この曲を「難解」なものと感じさせた原因のひとつでした。しかし、それ以上に、彼らが強い戸惑いを覚えたのは、絶対音楽である交響曲に声楽を加えたベートーヴェンの前衛的な音楽技法であったことはあきらかです。ベートーヴェン自身も、この試みは単なる暴挙にすぎず、完全に間違いであって「いつか純粋音楽の終楽章を書こう」と弟子のツェルニーに語ったということです。

B 「フリードリヒ・シラーの『歓喜に寄す』からの抜粋」

●=強拍(Hebung) ○=弱拍(Senkung)

[I]

| | |
|--|---|
| 1 Freude ¹ , schöner ² Götterfunken ³ , フロイデ・シェーネル・ゲトウル=フンケン | a 歓喜よ ¹ 美しい ² 神々の火花よ ³ |
| 2 Tochter ⁴ aus ⁵ Ely-si-um ⁶ (X) トホテル・アオス・イリーズィウム (○) | b 楽園 ⁶ から来た ⁷ 乙女よ ⁴ |
| 3 Wir ⁷ be-treten ⁸ feuertrunken ⁹ ヴィル・ビトレーテン・フォイエール=トウルンケン | a 天国から来た者よ ¹⁰ 私たちは ⁷ 火のように酔って ⁹ |
| 4 Himmlische ¹⁰ dein ¹¹ Heiligtum ¹² ! (X) ヒムリシエ・ダイン・ハイリヒトウム (○) | b あなたの ¹¹ 神殿に ¹² 昇る。 ⁸ |

| | |
|--|--|
| 5 Deine ¹ Zauber ² binden ³ wieder ⁴ ダイネ・ツァオベル・ビンデン・ヴィーデル | c あなたの ¹ 魔力は ² 時の流れが ⁶ 厳しく ⁷ |
| 6 Was ⁵ die Mode ⁶ streng ⁷ geteilt ⁸ (hat) : ヴァス・ディー・モーデ・シュトレング・ゲタイルトゥ(○) | d 分けへだてた ⁸ ものを ⁵ 再び ⁴ 結びつけるのだ。 ³ |
| 7 Alle ⁹ Menschen ¹⁰ werden ¹¹ Brüder ¹² , アレ・メンシェン・ヴェルデン・ブリューデル | c すべての ⁹ 人々は ¹⁰ あなたの ¹⁴ 優しい ¹⁵ 翼が ¹⁶ |
| 8 Wo ¹³ dein ¹⁴ sanfter ¹⁵ Flügel ¹⁶ weilt ¹⁷ (X) ヴォー・ダイン・ザンフテル・フリューゲル・ヴァイルトゥ(○) | d とどまる ¹⁷ ところで ¹³ 兄弟に ¹² なる。 ¹¹ |

韻は、第1聯(れん)では、“-ken”と“-um”の韻が、また第2聯では、“-der”と“-eilt”の韻が交互に出てくる正当的な[a/b/a/b]韻です。詩のアクセントは、強拍から始まる、「強・弱・強・弱」の「トロカイック」“Trochaic”です。トロカイック韻は、前へ前へと詩を進めていく男性的なリズムを作っていきます。人類の理想に向かって進む自信に満ちた心意気を歌うにふさわしいリズムだといえます。シラーは、共通の「歓喜体験」によって、人類すべての心が溶けあって一つになるというのです。「溶ける」ではなく、「熔ける」とわざわざ「火偏」を使ったのは、歓喜が神の火花だからです。シラーはいいます、「人類の心は、もともと一つであったのだ。それが、戦争や飢饉や恐慌や独裁といった時の流れで、友が敵となり、仲間が仲間を殺したり嘲ったり軽蔑したりするようになったのだ」と。私たちも、「それほど激しく憎み合い、もう修復が効かなくなった関係であっても、歓喜はまた再び私たちの心をつなぎ合わせてくれるのだ。これを魔法の力と言わずして何といおうか!」とカんでみましょう。

| | |
|--|--|
| 9 Seid ¹ umschulingen ² , Millionen ³ ! ザイトウム=シュリンゲン・ミリオーン | e 抱き合 ² え、 ¹ 百万の人よ! ³ |
| 10 (Gebt) Diesen ⁴ Kuss ⁵ der ganzen ⁶ Welt ⁷ ! (X) ディーゼン・クス・デル・ガンツェン・ヴェルトゥ (○) | f この ⁴ 口づけを ⁵ 全 ⁶ 世界に! ⁷ (与えよ) |
| 11 Brüder ⁸ — überm ⁹ Sternenzelt ¹⁰ (X) ブリューデル、イューペルム・シュテルネン=ツェルトゥ (○) | f 兄弟たちよ ⁸ 星空 ¹⁰ の上には ⁹ |
| 12 Muss ¹¹ ein ¹² lieber ¹³ Vater ¹⁴ wohnen. ¹⁵ ムス・アイン・リイーベル・ファーター・ヴォーネン | e 一人の ¹² 愛する ¹³ 父が ¹⁴ 住んでいる ¹⁵ に違いない。 ¹¹ |

ここの「韻」は素晴らしいですね。この聯の韻だけは他の聯の韻と大きく違って、[a/b/b/a]になっています。「どうしてなのか」といえば、[a]が前後にいて、[b]を抱く形、すなわち「抱擁」を現しているからだ」と中部大学のドイツ文学者伊東泰治先生が教えて下さいました。

[II]

| | |
|--|---|
| 1 Wem ¹ der grosse ² Wurf ³ gelungen ⁴ (ist) ヴェム・デル・グロッセ・ヴルフ・ゲルンゲン | a 一人の ⁵ 友の ⁶ 友 ⁷ と ⁸ なる ⁹ といった、 |
| 2 Eines ⁵ Freundes ⁶ Freund ⁷ zu ⁸ sein, ⁹ (X) アイネス・フロインデス・フロイント・ツュー・ザイン (○) | b 大いなる ² サイコロの一振りに ³ 成功した ⁴ 者や ¹ |
| 3 Wer ¹⁰ ein holdes ¹¹ Weib ¹² errungen ¹³ (hat) ヴェル・アイン・ホルデス・ヴァイブ・エ=ルンゲン | a 一人の優しい ¹¹ 女性を ¹² 勝ち得た ¹³ 者は ¹⁰ |
| 4 (der) Mische ¹⁴ seinen ¹⁵ Jubel ¹⁶ ein ¹⁴ ! (X) ミッシェ・ザイン・ユウペル・アイン (○) | b その ¹⁵ 喜びの声に ¹⁶ 唱和しなさい ¹⁴ |

歓喜とはなにかーそれは、この世で幸せを見つけたことをいうのだ、例えば、真の友だちを得た人、優しい女性と結婚した人、だれかに確かに愛されていると感じる人こそ、歓喜を知る人なのだ。ここは、具体的に歓喜の内容を語っています。それは、「愛」です。それで、韻は“-n”の優しい響きを繰り返します。

| | |
|---|---|
| 5 Ja ¹ — wer ² auch ³ nur ⁴ eine Seele ⁵ ヤァー・ヴェール・アオホ・ヌール・アイネ・ズィーレ | c そうだ ¹ この地 ⁹ 上で ⁸ ただ ⁴ 一人でも ⁵ |
| 6 Sein ⁶ nennt ⁷ auf ⁸ dem Erdenrund ⁹ ! (X) ザイン・ネントゥ・アオホ・デム・エルデン=ルントゥ (○) | d 自分のものだ ⁶ と言える ⁷ 人は ² (唱和しなさい)。 |
| 7 Und ¹⁰ wer's ¹¹ nie ¹² gekonnt ¹³ (hat), der ¹⁴ stehle ¹⁵ ウント・ヴェルス・ニイ・ゲ=コント、デル・シュテレー | c そして ¹⁰ それが ¹¹ でき ¹³ なかった ¹² 者は ¹¹ |
| 8 Weinend ¹⁶ sich ¹⁷ aus ¹⁸ diesem ¹⁹ Bund ²⁰ ! (X) ヴァインントゥ・ズィヒ・アオス・ディーゼム・ブントゥ (○) | d その者は ¹⁴ 泣きながら ¹⁶ この ¹⁹ 同盟 ²⁰ から ¹⁸ ソッと去るがいい ¹⁵ |

もしあなたが、このどれも知らないならば、私たちの仲間になることはできない。涙を流して去っていきなさい。

[Ⅲ]

- 1 Freude¹ trinken² alle³ Wesen⁴
フロイデ・トゥリンケン・アッレ・ヴェーゼン
- 2 An⁵ den Brusten⁶ der Natur;⁷ (X)
アン・デン・ブーシュティン・デル・ナトゥール (O)
- 3 Alle⁸ Guten,⁹ alle¹⁰ Bösen¹¹
アッレ・グウテン・アッレ・ペーゼン
- 4 Folgen¹² ihrer¹³ Rosenspur,¹⁴ (X)
フォルゲン・イーレル・ローゼン＝スプール (O)
- 5 Kusse¹ gab² sie³ uns⁴ und⁵ Reben,⁶
キュッセ・ガーブ・ズィー・ウンス・ウントウ・レーベン
- 6 Einen Freund,⁷ geprüft⁸ im⁹ Tod.¹⁰ (X)
アイネン・フロイントウ・ゲプルーフトィム・トート (O)
- 7 Wollust¹¹ ward¹² dem Wurm¹³ gegeben,¹⁴
ウォルスト・ヴァルトウデム・ヴルム・ギゲーベン
- 8 Und¹⁵ der Cherub¹⁶ steht¹⁷ vor¹⁸ Gott¹⁹ ! (X)
ウントウデール・ケループ・シュティート・フォル・ゴット (O)

- a すべての³ 生き物は⁴ 自然の⁷
- b 乳房⁶ に触れて⁶ 喜びを¹ 飲む。²
- a すべて⁸ 善き者も⁹ すべて¹⁰ 悪しき者も¹¹
- b 歓喜の¹³ 薔薇の足あとを¹⁴ たどっていく。¹²
- c 歓喜は³ 私たちに⁴ キス¹ と⁵
ブドウ酒と⁶
- d 死ぬ¹⁰ ような⁹ 辛酸をなめた⁸ 友を⁷
与える。²
- c 快楽は¹¹ ウジ虫 (のような奴) に¹³ 与え¹⁴
られ、¹²
- d そして¹⁵ 知恵の天使ケルビムが¹⁶ 神¹⁹
の前に¹⁸ 立つのだ!¹⁷

歓喜といっても、快楽ではありません。飲んだり食べたり、女の子と遊んだりといった欲望を満足させるための快楽なのではありません。そんなものは、ウジ虫にくれてやるがいい。神の玉座を守っている天使ケルビムは、快楽ではない、真の歓喜を叫ぶ私たちを神に紹介するために、神の前に立ち私たちを迎えてくれるのだ。

- 9 Ihr¹ stürzt² nieder³, Millionen⁴ ?
イーレル・シュトゥルツ・ニエーデル・ミリオーネンヌ
- 10 Ahnest⁵ du⁶ den Schöpfer,⁷ Welt⁸ ? (X)
アーネストウ・ドゥー・デン・シェップフェール・ヴェルトウ (O)
- 11 Such⁹ ihn¹⁰ überm¹¹ Sternen-zelt¹² ! (X)
ズーフ・イーエン・イューペルム・シュテルネン＝ツェルトウ (O)
- 12 Über¹⁴ Sternen¹⁵ muss¹⁶ er¹⁷ wohnen.¹⁸
イューペルム・シュテルネン・ムス・エル・ヴォーネンヌ

- e 君たちは¹ ひざま³ ついているか²
百万の人よ⁴ ?
- f 君たちは⁶ 創造主を⁷ 予感して いるか⁵
世界 (の人々) よ⁸ ?
- f 星の天幕¹² の上に¹¹ 彼 (創造主) を¹⁰
探し求めよ!⁹
- e 星々¹⁵ のかなたに¹⁶ 彼は¹⁷ 住んでいる¹⁸
に違いない。¹³

[Ⅳ]

- 9 Froh,⁹ wie² seine³ Sonnen⁴ fliegen⁵
フロー・ヴィー・ザィネ・ゾンネ・フリーゲンヌ
- 10 Durch⁶ des Himmels⁷ prächt'gen⁸ Plan,⁹ (X)
ドゥルヒデス・ヒンメル・プレヒトギン・プランヌ (O)
- 11 Laufet,¹⁰ Brüder,¹¹ eure¹² Bahn,¹³ (X)
ラオフェット・ブリューデル・オイレ・バーンヌ (O)
- 12 Freudig,¹⁴ wie¹⁵ ein Held¹⁶ zum¹⁷ Siegen.¹⁸ (X)
フロイディッヒ・ヴィー・アイン・ヘルトゥヅウム・ズィーゲンヌ (O)

- e 喜んで¹ 彼 (創造主) の³ 太陽が⁴ 天の⁷
きらびやかな⁸
- f 構造を⁹ 通って⁶ 宙を動く⁵ ように²
- f 進みなさい¹⁰ 兄弟たちよ¹¹ あなたの¹²
道を¹³
- e 勝利に¹⁸ 向かう¹⁷ 英雄¹⁶ のように¹⁵
喜びにみちて。¹⁴

これはまさに哲学者カントの倫理学そのものです。地球が太陽の周りを回り、宇宙のすべての天体が神から与えられた軌道に乗って肅々と運行しているように、私たち人間もまた、正義と寛容の軌道に乗って肅々と生きるべきなのです。この「交響曲第9番」が、ベートーヴェンから私たちにあてた「福音の訪れ」であるならば、生きる喜びと生きるに値する世界を教えてくれたこの曲を家族揃って聞きながら、年の瀬を送り新しい年を迎えることは、とても意義のあることの様に思えるのです。

(音楽監督 都築正道)

五つの「第九」の五つの誇り

— 音楽監督の話 —

今年の春日井市民第九演奏会が高く掲げるパネルは、「第九初演の地ウィーンから指揮者を招いて」です。私たちの第九に寄せる情熱も知識も音楽性も意欲も決してウィーンの人たちに負けるものではありません。でも、四つの「第九」を歌い上げたいま、もういちど「第九」の原点に戻って、みんなで「新しい時代のあたらしい第九」に思いをいたすことはきわめて謙虚なことであり、賢明なことであるでしょう。

そして、春日井市民第九演奏会が誇りうるものは数多くあります。そのうちの五つだけご紹介しておきましょう。

まず、市民の参加が多いことです。出演する人は、合唱団が220名とオーケストラが80名で300名です。実行委員会と事務局と春日井市交響楽団の役員・理事と当日のお手伝いの人も含めて40名。聴衆のみなさまが1000名。春日井第九は、合計1340名の市民が一堂に会して開く大きな心の交流の場です。そして、「第九」は翌日の家庭の話題になり、職場のニュースになり、学校の噂になり、さらに多くの人たちの関心を集めることでしょう。

二つには、合唱団もオーケストラも、アマチュアであることです。春日井第九合唱団も、創立以来、会長の荒川昭代さんと熱心な役員さんが200名以上のメンバーと一緒に素晴らしい歌を聴かせてくれます。また、「第九」は難曲です。プロのオーケストラでさえ、なかなか満足できる演奏ができないほど、多くの課題と多くの音符と多くの難所をもつ魔の山です。それに、花村浩克団長を中心にしてアマチュアのカポ (春日井市交響楽団の愛称) が挑戦をつづけて5年です。今年も最高の演奏をめざし、オーケストラの練習指揮に池田俊先生とコンサートマスターに加藤悦司先生をお招きしてなんども特訓を受けました。アマチュアの良さは、怖さと限界を知らないことです。目的地を決めない者ほど遠くへ行きます。去年より今年、今年より来年…過去より未来へ、さらに躍進をつづけていきます。

三つには、毎年、はっきりした「テーマ」をもっていることです。

第1回は、春日井市制50周年記念の「祝賀第九」(1993年)でした。春日井市総合体育館に特設ステージを組んで、石丸寛さんの指揮で500名の合唱団と120名のオーケストラと3500名の聴衆による一大イベントを展開しました。銀打ち花火まで出て、ダイナミックで、華やかで空前絶後の祝祭的な「第九」でした。

この大成功の「第九デビュー」を受けて、第2回は竹本泰蔵さんの指揮と地元のリソリストのみなさんの出演による「親愛第九」(1994年)でした。正統的な解釈とゲナウ (適格) なテンポを重視する竹本さんの指揮は、「第九」をたんなるイベントやお祭りに墮する危険から「春日井第九」を守ってくれました。

第3回は、ニューヨークから指揮者とリソリストを招いての「日米親善第九」(1995年)でした。指揮者のホセ・コントレーラスさんの快調なテンポの「第九」は、いつもより10分近くも早く終わりました。「すっきりしたいい気持ちで歌えた」と言われるほど、それだけ、凝縮した、現代的な素晴らしい「第九」でした。

第4回は、音楽大学の学生たちを中心とした「新世紀第九」(1996年)でした。指揮者の高橋直史さんは東京芸大指揮科の4年生。リソリストも、みなさんが学生か大学院の研究生でした。若々しい生命が、新しい解釈と斬新な表現を生んだ新鮮な「第九」でした。「息子や娘と一緒に演奏しているようで緊張しながらも楽しかった」と暖かな雰囲気「第九」でもありました。

むしろ、今年の第5回は、「ウィーン第九」(1997年)です。アレキサンダー・ドゥルカーさんの指揮で、さあ、どんなウィーン風に洒落た「第九」になるでしょうか。ご期待下さい。それに、リソリストには、いまもとも活躍中の4人の方においでいただきました。50周年の「祝賀第九」で好評だったソプラノの松波千津子さん。第2国立劇場の柿落としの歌劇「タケル」の主演を歌ったバリトンの稲垣俊也さんと同じオペラに出演したアルトの森山京子さんとテノールの大間知覚さんです。4人の高度な演劇性とロマン性を備えた劇的で知的な熱唱が楽しみです。

四つには、舞台も客席も一つになって歌うアンコールの「春日井賛歌」です。みなさんと一緒に第九を日本語で歌うのです。日本語ですから、だれでも、大きな声で、間違えずに、内容を理解しながら歌えます。詩は、詩人のなかにし礼さんが書き下ろした「日本の第九」です。

「愛こそ歓喜に導く光り。われらは兄弟、世界は一つ…って、礼さん、なんだかどこかの振興会の歌みたいですね」とぼく。

「そんなこと言ったってシラーがそう言ってんだから。そろそろ人類も当たり前のことを当たり前のように言わなきゃだめだよ。こういうものは照れずにシラーッと歌うこと」と礼さん。

去年までは、音が高くてみなさんも歌うのに大変だったでしょう。オーケストラも小さな音が多くて大変でした。今年は、春日井市交響楽団のヴィオラの伊藤井都子さんが歌いやすいように編曲して下さいました。

五つには、「第九」においても、この四つことを常に同時に可能にする春日井市民の文化度の高さです。みなさんのご支援があって初めて可能な「春日井市民第九演奏会」です。あらためて感謝いたします。

みんなで歌おう、春日井賛歌を…

< 歓喜の歌 >

作詩・なかにし礼

1、あけいこそかおんきみにみち
2、ケダカキオトメヲカチ
びくひーか り さえぎとる
エタモーノ ヨ テ ヲ ト リ
く な ん を こ え て す すーま
カ シ コ ノ サ ケ ビ ヲ アーゲ
ん ヨ か ん き の い たー だり き
デ ニ シ ギ ノ ヒ トー だり き
デ ふ みー し め た と き わー れい
ニ ガ デ キ ヲ アー れい
ら は きょ う だー い セ か い は ひーと
ナ キ コ ド クー ノ セ ヒ ト ハ タ チーサ
つレ カ ニ シ ギ ノ い ヒ トー だり
き デ ふ みー し め た と き わー
れい ら は きょ う だー い セ か
い は ひーと クー ノ セ ヒ ト ハ
タ チーサ つレ

1. 愛こそ歓喜にみちびく光
さえぎる苦難を越えて進まん
歓喜の頂^{いただ}き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ
歓喜の頂^{いただ}き踏みしめた時
我らは兄弟世界は一つ

2. 気高き乙女を勝ち得たものよ
手を取り歓呼の叫びをあげよ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ
人間一人で何が出来よう
愛なき孤独の人は立ち去れ